

JARL

香川クラブ報

No. 380 平成23年12月15日



J A 5 Y D E

忘年会のご案内

年末のマラソンコンテストも終わりほっと一息の忘年会、お忙しいとは思いますが下記の通り開催致したく御案内申し上げます。

多数のご出席、又各局にお会い出来るのを楽しみにしております。

今回料理セットの為恐れ入りますが出欠のご返事宜しくお願い申し上げます。

記

日 時 12月22日(木曜日) 19:00より

場 所 「瀬戸内海料理 ぜにや 2F」

高松市瓦町2丁目10-21

TEL:087-833-0808

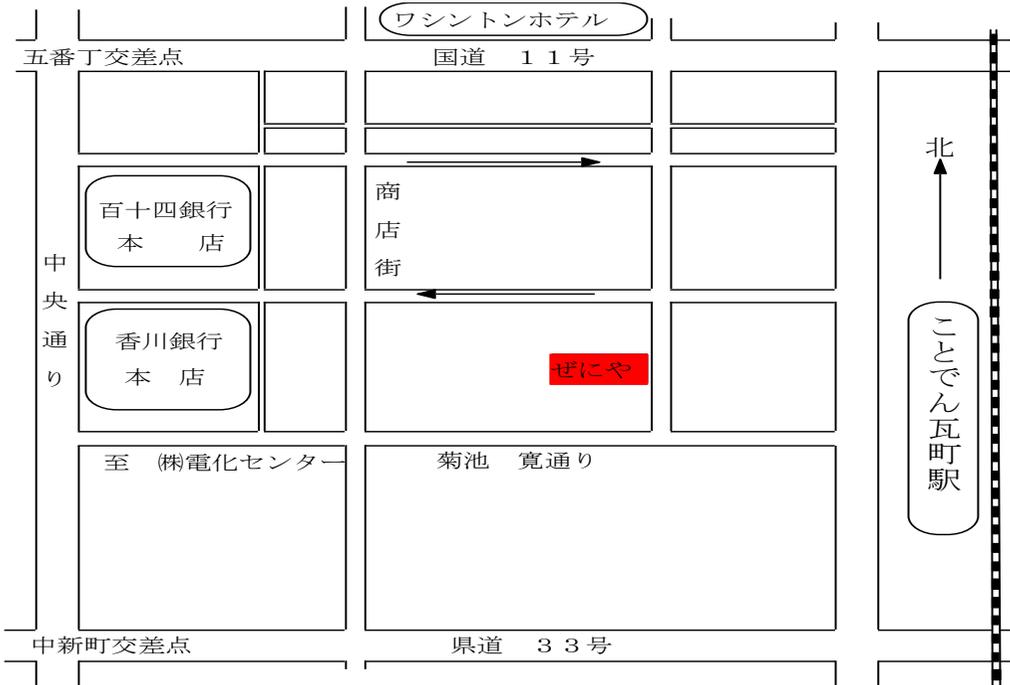
会 費 男性 5,000円

女性 4,000円

申し込み 締切12月18日(日曜日)

連絡先 JH5EZB

JH5PMZ



クラブミーティングの報告

11月22日、成合町「不二の屋」でクラブミーティングが開催されました。

三好会長から先般2011全日本ARDF競技大会が10月29日ツインパルさぬきでエキシビジョン、そして30日はみろく自然公園にて本大会が開催されました。大きな大会の運営は初めての経験で危惧するところもたくさんありましたが、JARL香川クラブの皆様が中心的な役割を果たし事故もなくクレームもなくスムーズに運営ができ、当初予定をしていた時間を大幅に短縮して大成功に終了したことの報告と謝意がありました。また、全日本ARDF競技大会の準備で参加をすることが出来なかった10月24日から26日に開催された高松市趣味協会秋の展示会もJA5AHM天野OMにより香川クラブが携わり記念局を開局したときに発行したQSLカードを展示した事の報告とお礼が述べられました。

11月13日には松島町でおこなわれた震災対策訓練総合訓練にJARL香川クラブの面々が赤いジャンパーを身にまとい無線交信による訓練等を行いました。写真を見て香川クラブの格好良い赤いジャンパーが俺もほしいとの催促があり、同じものが作れるかどうかを調べることになりました。制作が可能であればクラブ報にて応募をいたしますので、今しばらくお待ちください。



11月1日から社団法人日本アマチュア無線連盟が一般社団法人日本アマチュア無線連盟に移行をし、JA5MG稲毛OMが会長に就任をしました。近来、JARL会員数も減少し運営経費面でも厳しい状況ではあるが本来のアマチュア精神（手弁当での活動）で協力をしあいJARLを盛り立ててアマチュア無線を後世に残さなければならないとの決意が述べられました。

各報告の後、今年最後の行事は香川マラソンコンテストと忘年会だけになりました。昨年同様、香川マラソンコンテストにクラブとして参加をすべく下記の様に運用者を決定しました。声が聞こえていたならばお声がけをしてください。

香川マラソンコンテスト運用者

日	1.2	3	4	5	6	7.8.9	10.11.12	13.14.15
運用者	JA5TFJ	JA5IJL	JH5PMZ	JG5OBX	JA5AHM	JH5EZB	JI5XTP	JH5LYW

* 交替時間（例.JA5TFJ OMの場合1日0:00～3日08:00）

2011年 忘年会は12月22日（木） 19:00～（詳細別掲参照）に決まりました。ご多忙とは思いますが奮ってご参加をしてください。

今年も残りわずかとなりましたが、クラブ員の皆様におかれましてはお体をご自愛戴き良いお年をお迎えください。

<参加者> JA5AHM/JA5IJL/JA5TFJ/JH5EZB/JH5LYW/JH5PMZ/JF5ICA/JF5MED/JG5OBX
JG5PBO/JI5XTP

行 事 参 加

JH5EZB

10月24日～26日まで高松市趣味協会行事で秋の作品発表が高松市役所1階ロビーで開催されました。

JH5PMZ（多田OM）と留守番役と見学を兼ね高松市役所を訪れました。



高松市震災対策総合訓練が11月13日（日）早朝より開催されました、香川クラブも情報収集で運用訓練を致しました。

今回は沢山の参加局があり訓練運用も助かりました、各局有り難うございました、又お疲れ様でした。



ARDF 競技大会に参加をしてきました

第 19 回北四国 ARDF 競技大会（愛媛県伊予市南伊予地区周辺）

<144MHz 部門>

11 月 13 日（日）

クラス	順位	コールサイン	所要時間	探索個数	J G 5 T J J さん、長い間の Q R T からの復帰試合。可愛い笑顔を振りまきながらの走破で 3 個ゲットの 2 位入賞。エリアは松山自動車道を挟み左右に直線的に T X を配置していました。
W21	2 位	J G 5 T J J	1 時間 29 分 04 秒	3 個	
M21	2 位	J G 5 O B X	1 時間 26 分 47 秒	5 個	
	6 位	J H 5 L Y W	1 時間 04 分 26 秒	4 個	
M50	1 位	J G 5 W T P	1 時間 02 分 45 秒	4 個	
M60	3 位	J I 5 X T P	1 時間 16 分 48 秒	3 個 (4)	
	4 位	J A 5 U V T	1 時間 19 分 19 秒	3 個	

中国地方 ARDF 競技大会（岡山県井原市美星町周辺）

<144MHz 部門>

11 月 20 日（日）

クラス	順位	コールサイン	所要時間	探索個数	先のオーストラリアで開催された R e g . 3 A R D F 競技大会、M 5 5 の優勝者 三好 O M がチャンピオンの実力を発揮し参加者でただ一人、全 T X を探索しました。
W21	1 位	J G 5 T J J	1 時間 18 分 37 秒	1 個	
M21	1 位	J H 5 L Y W	1 時間 42 分 46 秒	5 個	
	3 位	J G 5 O B X	1 時間 52 分 53 秒	4 個	
M50	2 位	J G 5 W T P	1 時間 45 分 01 秒	2 個	
M60	2 位	J A 5 U V T	1 時間 40 分 19 秒	3 個	

飛驒の山ザル

J A 5 A H M

昭和 42 年 5 月 16 日、私が仕事が終わって家に帰ると、X Y L が「お客さんがみえている」という。私がシャックにはいって行くと、いがり頭の学生が三人正座して待っていた、高松の街を歩いていたらガソリンスタンドの近くにアンテナが上がっているというので来てみることにしたそうだ。

はじめは恥ずかしくて、私の家の前でトランシーバーのアンテナを伸ばして電波を出してみたが駄目だったので、訪ねてみようか、いや迷惑だったらいけないのでやめようかと、10メートル程の間を行ったり来たりしたとのこと。

彼らは岐阜県立斐太高校の学生で岡山→高松→宮島→広島という修学旅行コースの途中高松へ来て自由時間に街を見学していた時のことだ。

「オレ達ァー飛驒の山ザルだ」当たって砕けると勇気を出して戸を叩いたという。高校生くらいの人が見れるかなと思っていたらしいが、これは大きな空振りだったと笑う。

アマチュア無線をやっていると、旅に出たとき列車の窓から見える景色とともにアンテナが目につく。竹竿のアンテナもあれば、立派なタワーにピカピカのアンテナをのせたものもある。彼らは古ぼけた竹竿アンテナを見つけて来てくれたのである。初対面の彼らと会った瞬間から、十年來の知己のように年齢差も忘れ、同じ趣味をもつもの同士、無線機のこと、珍しい局と交信した話、自分達の地方の珍しい話題に話の花を咲かせた。

彼らの学校にもクラブの無線局があり、少ない予算のなかでアクティブに交信を行っているそうである。ただただ残念なことに部員に女の子が一人もいないことだ。彼らはクラブ紹介で壇上に登って叫んだのだが、入部する Y L さんはいなかったという。これ

ほど良い趣味はないと思うのだがと、悔しがる。

高山市にも高山クラブがあり、山形さん（JA2BHG）や新田さん（JA2BIZ）というベテランHAMがおり、夏のフィールド・デーには乗鞍岳のコロナ天文台に移動して運用しているそうである。

彼らの話はさらに続く。アマチュア無線は高校に入学して、まとまった組織の中で始めたが、これほど楽しいものはないと思っている。この趣味によって多くの友人を得ることができた。しかし、最近の国内の交信には人間味が薄れてきたように思う。もっともっと地方の名物や有名なものについて話し合えたら、より一層親しさがますのじゃないかなあーと残念がる。

話のファイナルを見つけることができないまま、宿へ帰る時間が迫ってきた。別れを惜しみながら、お空での再会を約して彼らを見送った。

5月31日、私の妻が岐阜県の大垣市と交信しているところへ、ブレイクがあった。コールサインをよく聞くと、斐太高校のクラブ局である。大垣市の交信をそこそこにすませ、彼らに応答すると修学旅行のときに合った彼らである。クラブの部室でワッチしていると、YLさんの声がかかなり強力に入感する。なおも聞いているとコールサインがJA5CBF（私の妻の呼出符号）と知っている。これらには彼らも「びっくらん」したようで、早ばやお空で再会することができたことをよろこびあった。

彼らはいう。高松での出会いは一生の思い出になるでしょうと。その彼らから何度か手紙や写真を送ってくれた。そのたびに、「良い思い出とすばらしい交信をありがとう。」と書いてくる。

その後、それぞれ希望の国立大学に進学できた喜びなどを手紙で知らせてくれた。もう44年前のも前のことである。今ごろは彼らも良きパパになっているだろう。そして、ちょうど当時の私と同じくらいの年齢になっている彼らは、高校生を相手に同じような話をしているのではないかと懐かしく思い出される。



飛驒の山ザル達（JA2YFP）

JA2KHL 瀬ノ上 祐、JA2JPX 砂田 明伸ほか部員18名

昭和42年5月23日撮影

性も根も尽き果てて

2011 全日本ARDF 競技大会実行委員会運営部長
JARL 香川クラブ会長
JH5LYW 三好伸幸

実行委員の皆さんと食事をしていて何だか凄く眠くなって、そのまま横になった。みんなの声が耳元でいやにハッキリと聞こえている。随分時間が過ぎて行っているように思うし、一瞬のような気がする。昨日のことが目の前に現れたと思ったら5年も前のことが現れたり、いろいろなことが次々目の前に現れて、まるでタイムマシーンで時空をさ迷っているように場面が変化して行く。

“全日本ARDF 競技大会 “そのことが現実味を帯びたのは 2007 年兵庫県三木市で開催された全日本大会だった。

前回の四国での全日本大会が熊本県の次に愛媛県で開催されたから、今度も九州が受けたら次は受けなければならないだろうと前々から話していたのだが、ついに来年は鹿児島県と決定した。「いつまでも逃げるわけにはいかないだろう。何とかなるかな」と数人のメンバーで覚悟を決めた。

「再来年は香川県で開催しましょう」と話していると、関東のメンバーがやってきて「出来たら鹿児島の次に関東でやらしてくれないか？」と持ちかけられた。

「どうぞどうぞ、やりたい所があるならぜひどうぞ」と言うことになった。

そうこうしながら茨城県の次は「長野県がやりましょう」と手を上げていただき、こうして今回の大会の運びとなった。



香川県での開催が正式に決定して以来 2 年間、主だった方と会議を重ね、運営委員や審判員の依頼、競技エリアの選定、スケジュール始め各種計画書の作成など次々とやらなければならないことは山ほどある。

競技の特異性から、ある程度はARDF という競技内容を理解しているメンバーがいなければ大会の勘所がわからないだろうが、幸い香川県でARDFを楽しんでいるメンバーは 10 名を超える。

実行委員会の組織を立案するときに、四国地方本部長や香川県支部長からいろいろ注文はあったが独断と偏見で組閣することにした。

たぶん、自分の配置に不平不満があった方もおられたと思う。



70名を超える実行委員の方全てが満足する配置は難しい。

ARDFの経験者、JARL香川クラブのメンバーを中心に実行委員会を組閣し、大会に臨むことにした。

競技エリアが決定してから、競技地図作成のため時間があれば競技エリアに入り、猪や猿と睨み合いながら通行可能かどうか山の中を這いずり回り、2～3mも滑り落ちたり、背丈以上もある草むらの中を恐る恐る歩いたり、危険と思われるところには黄色のテープを張り、元々は道だったところについては竹を切り、草を刈り、木を切って道を復元した。台風や大雨のたび倒木の撤去など修復を余儀なくされた。

月日は流れ大会参加申込みが終わって、JARLから参加者名簿が送られてきてから、一気に本格モードに突入した。



9月、10月の2ヶ月間は今まで以上に時間があれば競技エリアを歩き、夜はタイムスケジュールやスタッフ個々の時間、役割配分、参加者の宿泊や部屋割り・食事から送迎など、考えれば考えるほど問題が出てくる時間を過ごした。

関係会場施設と調整を重ね、さぬき市役所や高松市役所、さぬき警察署などと協議を行い競技エリアにある自治会の調整にも当たった。

大会前日、早朝から会場で審判長や総務部長と最後の調整をして、家に帰ったのはかなり遅かった。

10月29日、いよいよエキシビジョン大会を迎えた。

審判会議、開会式と進むにつけ、自分が描いたスケジュールに不備が出てくる。

しかし、スタッフに恵まれていたお陰で軌道修正をしながら、大した問題なく大会は進行して行く。

一人の行方不明者も出ず、大怪我をしたと言う情報もなく予定時間で終了し、安堵の内に夕食会となった。選手もスタッフも和気藹々と楽しんでいるようでホッとした。

経費の都合上、アルコールが少なくがっかりした方もおられると思うが、そこはそれ各自自室に引き上げてからが大いに盛り上がっていたようだ。

アルコールが少ないのはわかっていたから、自宅にあるワインやお酒を提げてお詫びがてらそれぞれの部屋を回ったが、行く先々で歓待された。

ARDFをやっている人は皆さん紳士淑女、野暮な話は無しでFBな時間を過ごした。選手の部屋を回った後、最後にスタッフの輪に加わり今日の成果と明日の成功を祈念し、いつ寝たのか記憶にないほど酔っていた。

いよいよ2011全日本ARDF競技大会本番。

スタッフの皆さんに助けをもらいながら、スケジュールが進んで行く。



雨が降り出し、屋外に出ておられるスタッフが気にかかる。
足を滑らせて池に落ちたり、大怪我をする選手が出ないかと気にかかる。
雨に濡れてS Iなどの機器にトラブルが起きないか気にかかる。
選手送迎のバスが事故でも起こさないか。あれもこれも不安が一杯で気にかかる。

「全員がゴールしたよ」との声に、それでも不安が拭い消されない。

「最終結果を発表したから異議申し立てを受けてよ」と言われて、初めて「終わった」と実感した。

表彰式も閉会式も順調に
終わり、時計に目をやると
計画したスケジュールより
30分以上も早い。

かって、スケジュールより
早く終わった全日本大会な
んてあったらどうか？

「楽しませてもらったよ」

「うどん美味しかったよ」

「お土産を買う時間を作っ
てくれてありがとう」

「お世話になりました」

そんな選手の声をうわの空
で聞きながら見送った。

打ち上げを兼ね、今大会の主会場だったみろく自然公園のユートピアみろくレストラ
ンでのご苦労さん会では、挨拶に立った本部長が涙ぐみ、審判長も感極まっていた。
そんな姿を見つめながら、なぜか冷めた自分が横で立っている。

「目一杯できたのだろうか。俺は何をしたらだろうか。もっともっとやらなければならない
ことがあったはずだ。」と自問自答している。

今は現実なのか夢の中なのか？

ふと、誰かの声がして目が覚めると、実行委員の皆さんの顔が見えた。



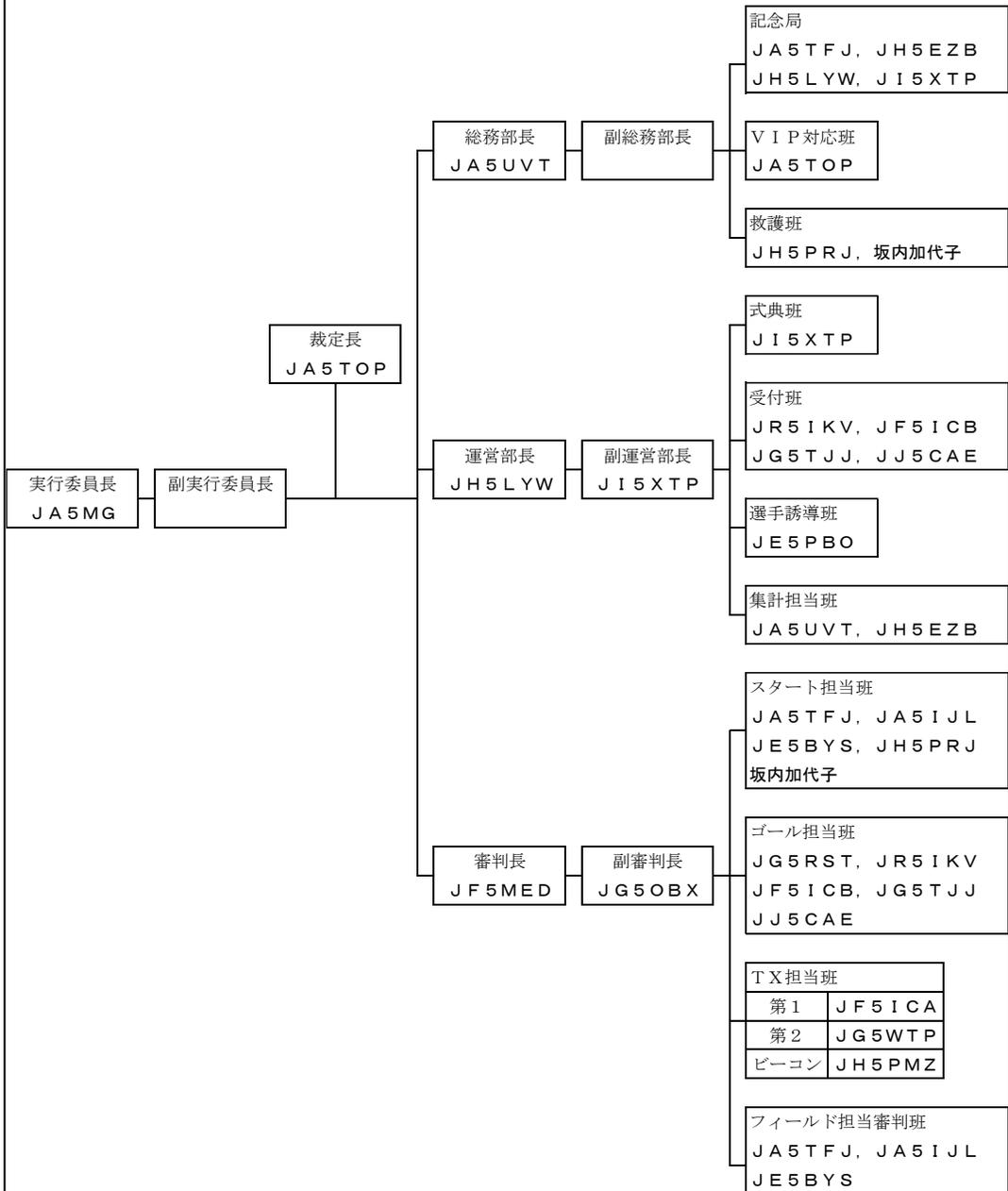
2年間、この時のために懸命にやっ
て来れたことや、スタッフに恵ま
れ、楽しく有意義な時をみんなと
共有し、一緒に過ごせたことに感
謝せずにはいられない。

こんな時良く思い浮かぶ歌の一節
に「人は石垣、人は城」のフレー
ズがある。

一人では何も出来ないが、仲間が
いて、心を一つにすれば何でも
できると言うことを、また思い知ら
された。

JARL香川クラブの各位には主要なポストで、それぞれの方が私が描いていた計画
よりはるか先を見越して行動していただき、役割を理解し、創意工夫をし、私の至らな
いところをカバーしていただき、大会を大成功に導いてくださり本当にありがとうございました。
お世話になりました。謹んで、心よりお礼申し上げます。

2011全日本ARDF競技大会実行委員会組織のうちJARL香川クラブが果たした役割



副実行委員長を除いて、主要な全ての部・班でクラブ会員各局のご協力を頂き、いかにJARL香川クラブが香川県におけるアマチュア無線の行事に深く関わっているかがわかると思います。

また、それが故に期待される場所も大きいと思います。

11月1日よりJARLは“一般社団法人日本アマチュア無線連盟”としてJA5MG稲毛会長の元、ますます期待される場所が大きくなると思います。

今後とも、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

2011 年全日本 ARDF 競技大会奮闘記

J F 5 M E D

まだまだ秋の紅葉が始まるわけでもなく、暑さが残っていた昨年の10月下旬に一昨年のARDF北四国大会の候補選びの際に訪れたみろく自然公園の周辺をARDF全日本大会の候補地として、また私自身は大会の審判長という大役を任される事になりその第一歩目を歩き出した所から私のARDF全日本香川大会はスタートしました。

思いおこせば、その前の週に長野県は富士見高原一帯でおこなわれた全日本大会の会場は素晴らしいテレイン（何所まででも踏み入る事の出来る森を主体とした周辺一帯）の現地視察（選手での参加）で、あの会場地に勝る様な所は香川県の何所にも無い事に憤りを感じつつも「香川は香川、この日本一面積の小さな香川県でここでしか出来ない事、尚且つ来てもらった人にインパクトを残せる様な独自性を前面に出していこう」、内心開き直る形で来秋の現地周辺の山や谷間の植生を想像しながら現地調査からしていきました。

本格的に動き始めると、必要になるのはエリア全体が正確に把握出来る地図になります。地図はJH5LYW三好会長にお願いをして、さぬき市役所建設課で亀鶴公園とみろく自然公園周辺の比較的新しい行政地図を購入して貰いました。私は自宅のインターネットを使い衛星写真と行政地図を照らし合わせた上で大まかな道の補正だけで済みそうな感じで競技地図の範囲をエリア別に分けてもらい、その分けかたエリア内での地図の表現方法と実際現地に行った際の矛盾点探し（植生や地形及び道の書き入れ方等とにかく自分が感じた事を細かく綿密に記帳する形の地道な現地調査）をおこなう事から始めました。



地図はA4サイズかB4サイズでの競技地図を考えており、競技エリア全体の幅をどうするか？から考える事になりますが最低でも作ろうとする基本地図エリアの1.5倍

は現地調査してはならないとOL（オリエンテーリング）講習会で講師の先生から講義を受けた事があります。

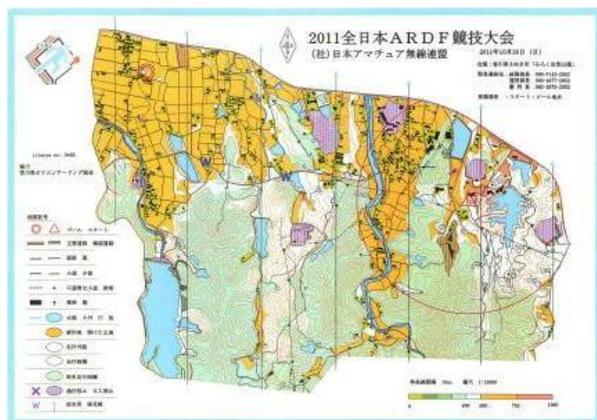
今回の地図作成では従来の様な見慣れた白黒の行政地図を引用した物の使用では近年の全日本大会クラスではまずダメでそれを使用したら、多分後々地図に見慣れたベテラン選手側からクレームが出るだろうと内心思っていました。しかし、本格的な見やすいカラー印刷の地図を一から作れる人は私も含め



たアマチュア無線家の我がメンバー内には誰一人居ないのが現状でした。

地図を新たにおこすにはOL (オリエンテーリング) の作成ソフトO-CADを使うのが操作や手間が簡単で短期間に出来て望ましいので最近では日本各地のARDF競技地図を作成する際の基本ソフトとなっていましたので、香川県オリエンテーリング協会の代表(木村OM)にJARL側から協力を願い出まして香川オリエンテーリング協会の協力のもとでO-CADの講習会を開いて貰い、その後パソコンを使った技術的指導や現地植生調査のやり方・相談にも答えて貰う事で地図作りの出来る人材の育成に全面的協力をして貰いました。それと平行して最近のARDFでは電子パンチ方式に時代が移行している為、昨年香川県下でも導入したSIシステムの講習会も定期的積極的に薦める事で取り扱える人材の増加に期待しました。

おかげさまで、O-CADはJI5XTP(坂内OM)が中心になり取り扱う事が出来る様になったので地図作りで私への負担が少なくなり、坂内OMに地図班のリーダーになってもらった事は大変感謝しております。



SIに関しては競技会が無い為に全然人材が育たず不安材料ばかりの課題が残る形となり普段は選手側でシステム運用では唯一使える私かJA5UVT(詫間OM)が大会当日もスタッフにならなければいけないのか?と危惧する思いでいました。

この頃から私は地図のどの場所にスタートとゴールを持って行きどのルートを使うか?で、上手くまとめないと難易度もガラリと変わるから「いい加減には決められないな」となかなか

か地点選びでは踏ん切りが付かず悩んでいました。

ルール上、スタートとゴールは離して設定しなければならず最低でも750m離す事を考えたら、大会集合会場をみろく自然公園にするとすればスタートかゴールのどちらか一方を公園内に置く設定ではこのエリア内にはTXを置く事は出来ず、競技地図のエリア内でも1~2を争う様な複雑な地形の場所なだけにTX設定をすれば選手が必ず苦勞するはずで、とても残念でなりませんでした。

スタートをみろく自然公園内に持って行く設定ではゴールは750mの円の外に設定しなければなりませんから、競技参加の選手の大半はゴール後移動バスを使い大会本部まで搬送する手法をとり入れようと考え、スタートとゴールを前年度の時の様に遠く離す事を考えARDF北四国大会の折に本部をすえた門入ダムの水門下の公園を利用する案で私は当初考えていました。

つづく

2011 全日本 ARDF 競技大会の審判を務めて

J G 5 R S T

去る 10 月 29 日と 30 日に「2011 全日本 ARDF 競技大会」が、何かの縁か私の地元であるさぬき市で開催されました。2 年前 JF5MED 山田さんから「香川県で全日本大会をすることになった」と聞いた時、「香川県は審判も選手経験者も ARDF に熱心な人はたくさんいるので、大丈夫だろう」とは思いました。しかし「他地域と違い山道が整備されているわけでも無く、全国から 200 人ぐらいの選手が来るとすれば、宿泊場所の確保や、もちろん競技はルール通りの大会にしないとイケないなど、数多くの問題を抱えるだろう」とも感じました。

私事で大変恐縮ですが 2007 年 11 月に原付運転中、とある交差点で一時的停止の標識を無視した自動車と出会い頭に衝突し、左足膝骨折や左膝前十字靭帯断裂などの大ケガを負いました。リハビリは懸命に続けましたが、「階段の上り下りも困難で、走ることも難しいので ARDF の選手としてはもう二度と競技大会に出ることは不可能だろう」と思い、大変悔やんでいました。更に追い打ちをかけるように、審判をする 10 月頭になって引いた風邪をこじらせ、急性喘息になってしまいました。JF5MED 山田さんと、私の担当であったゴール審判の班長の JG5WWD 比嘉さんには電話をし了解を頂いて、29 日は喘息の点滴を病院でしてもらってから、自宅からすぐの「ツインパルながお」へ向かいました。



29 日は「ツインパルながお」で 3.5MHz のエキシビジョン競技が行われました。私はゴール設営後、時計読み係を担当しました。いまは SI という IC カードを選手が持っており、TX やゴールにある SI ステーションに差し込むだけで、集計まで一元的に行うことができます。もう昔のようにパンチカードに穴を開けたり、回収したり、厳密に秒読みすることはないかと思うのですが、やはりそこは機械物、トラブルが発生しない保証はありません。そう考えるととても重要な役割です。時計から目が離せません。

30 日は「みろく自然公園」で 144MHz の競技（本大会）が行われました。私はゴール担当なので開会式が終わった後、遙か西に設置されたゴール地点へ向かい、既に始まっていた設営を手伝い、その後ゴール走行ライン入口の管理を行いました。

風が一時強く吹いたり、小雨が途中からぱらついてきていたこともあり、選手も大変だろうなと思いながら、選手を待ち受けました。M19 の選手が迷いながらも必死にゴールをめがけて、ゴール走行ライン内で追い抜き追い越しとカー杯疾走している様は、かつて自分も愛媛の久万高原や北海道で行われた全日本 ARDF 競技大会で経験したこともあり、懐かしく感じました（註：ゴール走行ライン内での追い越しはルール上問題ありません）。途中連絡ミスが有った模様で、一人帰ってきていないのでは？と問題になりましたが、全員無事であることを確認すると一審判ではありますが、やはりほっとします。幸い全員がゴールし本降りの雨になったのは選手全員がゴールし、ゴールを撤収中

のことでした。



表彰式・閉会式で、通例は全日本大会になると予定より1時間は遅れることが普通ですが、JH5LYW 三好さんによると、今大会は特に大きな問題も無く、逆に1時間早く閉会できたとのこと。進行にご協力頂けた選手のおかげもあると思いますが、ひとえに入念な準備を行った方々のおかげではないでしょうか。また、今回の大会では全くクレームがでませんでした。両日とも選手にとってはかなり難しい

隠し方になっていたので、異議申し立てが有るかと思いましたが全くありませんでした。選手の皆さんにも楽しんで貰えたのではないかと思います。

最近では ARDF 競技から離れ、さらに当日は喘息で大変ご迷惑をお掛けしましたが、無事に審判としてお手伝いできたことは、私自身にも励みになりました。少しでもお役に立てれば幸いです。また近場で開催される際には走ることは出来なくとも歩いて1個でも見つけてゴールするだけでもいいので、選手としてもう一度参加してみたいと思いました。

最後になりましたが、実行委員・審判団の皆様をはじめ、実行委員会を運営されました JH5LYW 三好さん、総務関連をご担当された JA5UVT 詫間さん、そして、審判長として TX 管理までされた JF5MED 山田さんには特に感謝申し上げます。

**前年度までの会費が未納の方は早急に納入をお願いします。
また、平成23年度会費につきましても早急に納入をお願いします。**

JARL 香川クラブ報

発行責任者	JH5LYW	三好	伸幸
編集者	JA5TFJ	横田	寿夫
	JH5WMN	山口	博司
	JI5XTP	坂内	信洋